

## 岐阜大学との教育研究交流

### 応用生物学部との連携



### 大学院との連携



当センターは、岐阜大学と教育研究交流を進めています。令和元年度に応用生物学部と「教育研究交流に関する覚書」を締結し、「地域農業技術論」の講義が今年度も3年生の希望者を対象に開講されました。本講義では、当センター職員が岐阜県の水稲、カキ、イチゴ、花等の品種育成をはじめ実践的な農業技術や研究の紹介、実験・実習を担当しています。

また、これまでの取り組みを大学院生まで拡大するため、4月27日に大学院自然科学技術研究科と教育研究協力に関する協定を締結し、「連携大学院方式」による研究指導体制を新たに構築しました。今後は、大学院生が県の農業研究に参画し、県研究員が指導教員となって指導することになります。

今後は、大学が保有する先端技術の知見やノウハウを活用した研究の促進とともに、将来の岐阜県農業を支える研究人材の育成につながるものと期待しています。

## スマート農業推進機能の全県拡大

スマート農業技術の導入をさらに加速化するため、今年度から当センターと中山間農業研究所が新たな情報発信拠点として位置づけられました。7月9日に「スマート農業推進機能の全県拡大セミナー」が行なわれ、当センターでは同日から7月30日まで自動草刈機やアシストスーツ、水田センサー等のスマート農業機器の展示と貸出を行いました。特に、自動草刈機への関心が高く、視察、貸出体験をされた方々に好評でした。

当センターでは令和4年1月7日～2月25日にも第2回目の展示・貸出を行い、さらにスマート農業技術導入推進に努めていきます。



自動草刈り機(左)、スマート農業機器展示(右)

# 新規プロジェクト「次世代農畜産業のデザインプロジェクト」を開始

～本プロジェクトでは、省力化・低コスト化に対応した栽培管理技術の開発や「美味しさ」などの特徴を持つ新たな県オリジナル品種・商品開発を行います。当センターでは、野菜部・花き部・果樹・農産物利用部・作物部において、4つの研究課題を実施します。～

## 新規就農に適した新たな品目および生産体系の確立【野菜部】

### イチゴ高設栽培「岐阜県方式」

- ・栽培ベンチに不織布を使用し少量培地（ヤシガラ）で栽培
- ・給液管理をマニュアル化

### トマト独立ポット耕栽培

- ・栽培ベンチに不織布製独立ポットを使用し少量培地（有機質）で栽培
- ・給液管理をマニュアル化

### キュウリ(新品目)



イチゴ・トマトで当センターが開発した養液栽培技術を活用し、新規就農者でも高収益が期待できる冬春キュウリ栽培の生産技術を確認します。  
(栽培イメージ)

## 日持ち性に優れるネイティブフラワー新品目の商品開発と輸出適応化【花き部】

ネイティブフラワーは、南半球原産の花々で、これまでにない個性的で野趣あふれる花が特徴です。本課題では、栽培に適した品目・品種を選定し、用途別に商品化すると共に、安定生産技術の確立を目指します。



リュウカデンドロン

エバーラステイング



セルリア



- ①適品種の選定
- ②新商品の開発
- ③栽培法の確立

切花

鉢花

花壇苗

## カキ栽培のデジタルトランスフォーメーション(DX)化に関する研究【果樹・農産物利用部】



画像のRGB値を計算し、指定値以上（カラーチャート値5）の果実のみを可視化するアプリ（開発製品イメージ）



空撮画像等を用いて、樹体の3Dモデルを構築。樹冠容積を割り出し、容積当たりの適正着果量、収穫果数、施肥量等の基準を作成。樹体ごとのオーダーメイド管理を実現する。

## 米粉専用品種の安定多収技術の確立【作物部】

県育成品種「こなゆきひめ(出願公表中)」は製粉性が優れており、輸出用でんぷら粉や米粉どら焼きなどに利用が進められている当センター育成の米粉専用品種です。



草丈を短くする資材を利用した倒伏軽減の検討（左：草丈が短くなっている）

- 「こなゆきひめ」の米粉の安定供給に向けて、栽培技術の確立に取り組めます。
- 生産地域の拡大のため、県内生産者の協力のもと現地実証を行います。